



コンニキニカニ

全乳白甘

ゆうき みかん
結城 美柑

「ほら・・・リト、こっち見て」

「おわっ！み、美柑！？
お前なんてカッコしてんだっ」

「リトもいつまでも女の子が苦手
とか言ってたら彼女できないよ？」
「だから妹の私がちょっと耐性
つけてあげようかと思って」



「ほら、これが女の子のあそこだよ」

美柑はそういうとパンツをずらし、
幼いたてすじをリトに見せつける。

「おわああっ！だ、ダメだ美柑！俺たちは兄妹なんだぞっ」

「ほーら・・・もっと近くで見てもいいよ？」

(ううっ・・・妹とは言えこんなの
見せられたら・・・マズイっ)

「あん…♥リトってば結構甘えんぼさん
だったんだね…」

なご なご

(オレ…何やってるんだろ…
でもおっぱい美味しいっ!!)

「いいよリト…これから毎日リトに
おっぱい吸わせてあげるね♥」

ちゅぽ
ちゅぽ
もみ
もみ



「えへへ…こっちも見たいんでしょ？」
「なっ…お、オレは別に尻なんて…」

「ベッドの下に隠してる本、見ちゃったもーん」
「うっ…」

「自分の心に素直になった方がいいよ？」

ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

「ほらっ！リトのだーいすきな
女の子のお・し・りっ♡」

ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

ヒ
ヒ

「…っ！！！」



「い、いいんだな美柑っ…ホントにイタズラしちゃうぞっ？」
「うん…いいよ。リトの好きな事して…」

「すげえ…これが美柑の肛門…」



「こ、こんなのいれちゃったりして…」

ああんっ♡

あっ…ん♡

「リトのおちんちん…こんなに
おっきくなるんだ…」
「こっちの面倒も私が見てあげるね」

スッ

ぽんぽん

ぽんぽん

「おわっ！み、美柑！？」
「おまっ…いつの間にこんなの覚え…うおっ！」

ちゅ

ぽん

んんんんんん

びびび

びびび

びび

びび

はふ…♡

しゅ

しゅ

しゅ

あむ…♡



ふあっ…リトおっ
前はダメっ…

あ…んっ♡

はんっ♡



そっ…そこっ
いじっちやダメえっ

あんっ♡んっ♡
はああんっ♡



「くうっ…美柑の中っ…きつくて…
気持ちいいっ!!」
「りっリトおっ…リトのおちんちん
すごいよおっ…」

キ
ニ
ッ

んあっ
くっ…ん
♡

ひくっ
ん

んああっ
♡

キ
ニ
ッ



くっ…美柑っ
出るっ!!!

ド
ビ
ッ

ビ
ッ
ビ
ッ
ッ

んはあああああっ
♡


「美柑っ、こっちも入れちゃうぞっ！」
「うんっ！いいよりトっ！お尻もしてっ♡」





はんっ...♥リトおっ
私のおしりに出してっ

あつ...ん
ふああああんっ♥



「あん…あふれてきちゃった…♥」
「もーりトってば妹の中に思いっきり
出しすぎだよ…」

「でもこれで自信ついたでしょ？」
「もしもまた自信なくなったら
もっかいしてあげるから…ね♥」



END.

金色の闇

夜の校長室。金髪の美少女がその白い素肌をさらし、小さな下着に包まれた下半身をも露出させている。

「くっ…体が…勝手に!?!」
「貴方…いったい私に何を
したのですか」

「うほほほ!このララちゃんから失敬した
マイクで命令されると、誰もさからえない
んだよーん♪」

「さあヤミちゃん、キミは今からワシの
性奴隷として一生仕えるのです!」

「そっ…そんな馬鹿なこと…
私がするわけが…ないでしょう…」

「んん~?じゃあなんでスカート
をまくってパンツ見せちゃってるん
ですかね~?」
「くっ…」



あっ…

「さ～てそれではヤミちゃんの
大事なところを見ちゃおっかなっ！」

そう言うと校長はヤミのパンツを
ずり下ろした。
ヤミのたてすじが校長の視線に
さらされる。

「うひょ～♪つるつるぷにぷにですなあ」

「や、やめなさい…こんな事をして
良いと思っているのですか」
ヤミは抵抗しようとするが
なすすべもなく無防備な下半身を
さらすばかりだ。

「ヤミちゃんはオナニーとかしてるのかな～？」
「なっ、何を言っているのですかっ！？」
そんな事するわけがないでしょう！」
「ほお～、それじゃあワシがオマンコの使い方を
教えてあげましょう☆」

「さーて、まずはオシッコの仕方から♪」
「そ、そんな事を教えてもらう必要はありません」

「いやいや、正しいやり方は
違うのですぞ～？
まず大きく足を開いて、次に
思い切りオマンコを両手で押し開きます」
「い…いやっ…」
ヤミの抵抗もむなしく、言われた通りの
ポーズをとってしまう。

「そして『私のオシッコ姿を見てください』
とお願いしてから勢いよく放尿しましょう！」

「っ…わ、私のっ…オシッコ姿…
み、み、見てっ！見てくださいっ！」
恥じらいで顔を真っ赤にした
ヤミの股間から黄金の液体がほとぼしる。
「おお～っ！！よく出来ました！」
「ダメっ…見ないで下さいっ…」
「大丈夫！しっかり記録して
おりますから！」



「おんやあ～？ヤミちゃんのクリチンポが
ポッキしておりますよ？」
「ちっ、違いますっ…これはっ…」
いくら言葉で否定しても、恥ずかしいポッキを
手で隠すこともできない。



んっく...

「上手にオシッコできたヤミちゃんにごほうびをあげないとネ☆」
「ほーら、このピンクローターでヤミちゃんのクリチンポをいい子いい子してあげましょう」
「やっ...やめっ...ほうんっ♡」
ヤミの敏感な突起にローターが触れ、甘い振動を伝える。

初めての刺激に震えるヤミ。意識せず、腰を突き出し快感をより味わおうとしてしまう。

んんっ♡

ビクッ

ふあっ...
だ...め...♡

あっ...♡
んあああっ♡

グググ...

ビュッ

ビクッ

ビュッ



「さあ、ワシの教えたとおりに
やってみてごらん」
「あう…嫌なのに…こんな格好…」

机の上でヤミは自分の足を大きく開き、
性器がよく見えるようにポーズをとる。



「さーてヤミちゃんはワシに一体
どうして欲しいのかなあ〜??」

私の子宮に
いっぱいチンポミル
ク
中出して下さい

わ、私の…オマンコに
おチンポはめて下さい



暗い校長室に粘液質な音が響く。
「ほれっほれっ！初チンポの味はどうだっ!？」
ヤミの幼い肉壺に校長の剛直が遠慮なく
出入りする。
「あんっ...♡ふんんっ...♡」
ヤミは股間から突き上げる甘い快感に
抗うこともできず、夢中で嬌声をあげる。

ヤミの調教が始まって3日目。まだ心は抵抗を続けるが、体は逆らえない。

「ヤミちゃん、バナナは好きかな？」

「…バナナ？ 貴方は一体何を言っているのですか」

「さあ、こっちにお尻を向けて」
「あ…、な、何をするつもりですか？」
うっすらと嫌な予感を感じつつも命令に逆らえず肛門を見せるヤミ。

「ま、まさかそれを…」

正解い
ほい！

はんっ…
んっ…
く…
っ…

いただき
ます☆

そこっ…
違っ…

「おおっ！ヤミちゃんのケツマンコはよく締まるっ！」
校長の肉棒がヤミの肛門を激しく突き立てる。

あっ…

んあっ♡

あっ♡

「ほれっ！イク時はちゃんと
言うんだぞっ」

あんっ…♡あっ…
やつ…ん…♡

おっお尻で…
お尻でイキますっ…
んっくうううっ♡

ヤミの調教が始まって1ヶ月が経過した。
すっかりチンポの味を教え込まれたヤミは
校長の言う事を素直に聞くようになっていた。

「さ～ヤミちゃんのお好きなおチンポタイム
ですよ～♪」
「たっぷりペロペロしていいからね」

ポロンッ

ホカ

ホカ

ア
ドミキッ

ヤミの目の前に校長の男性器が差し出される。
「あっ……は、はい…」
ヤミは匂いたつその肉棒から目をそらせない。
最初は不快だったそのニオイにもすっかり慣れ
パブロフの犬のように、そのニオイを嗅ぐだけ
で唾液が口の中にあふれてくる。



「はむ…♥んむ…♥んっ…♥」
夢中で校長のチンポをしゃぶるヤミ。
毎日たっぷり1時間はこれを続けさせられる。
「う～ん、ヤミちゃんもずいぶんフェラが
上手になったねえ～」

「はひ…♥あ、ありがとうございます♥」
「んむっ…♥んっ…♥ご、ご主人さまの
おチンポとっても美味しいです…♥」

股間の前と後ろの両穴にパイプを
くわえこみ、恍惚とした表情を浮かべる。

「ほれっ！チンポミルク出るぞっ！」
「は、はいっ♥」

校長室の床に転がされたヤミ。
視覚を奪われ、自由をも制限され
ただひたすらパイプの伝える甘い
刺激のみを味わいつづける。

あひ…
♡

はっう…
♡

あんっ…
♡

「んじゃヤミちゃん、ワシちよっと
仕事いってくるからその間
そのままいい子にしてるんだよ〜♪
じゃ、いってきま〜す☆」



半年後、リトが夜道を歩いていると二人連れに出会った。

「あら？結城くん？奇遇だねえ」

「今、ペットの散歩中なんだよ」

「ペットって…ええっ!？」

そこには自分の知っている姿とは変わりはてたヤミの姿があった。

「結城…リト……」

肩からかけられたコートの下からほとんど何も身につけていない裸身が露出している。

やや控え目だった乳房は大きくボリュームアップし、両手でつかんでもあふれるほど。

白い肌に食い込んだ荒縄に締めつけられ、柔らかな質感をあらわにしている。

クリトリスも通常ありえないほど激しくボッキし、まるで男性器のようにその存在を自己主張している。

「ヤミ、お、お前…一体…」

「わ、私の事は…忘れて下さい…」

「私は…一生このお方の僕として過ごします…」

「じゃ、そういう事だからまたね～」

「あ、みんなには内緒だよ」

そう言うと校長はヤミの肩を抱いて夜の闇に消えていった。

■あとかき■

※このあとヤミはスタッフが校長の元から救出し、おいしく頂きました。

という事でこんにちは！旭丸です！今回はT o l o v eのヤミちゃんと美柑ちゃんを描いて見ましたがいかがでしたでしょうか？

アニメもはじまってますます絶好調のとらぶるですが、私はこの手の少年誌連載お色気漫画が大好きです。「いけないルナ先生」「やるっきゃ騎士」「どっきりエンジェル」「虹色TOWN」「OH！透明人間」などなど、あげればキリがないですが、少年時代にはあまり買えなかったその手の漫画を今になって集めたりしております。

とらぶるも週刊少年ジャンプという枠組みの中で精一杯のサービスをしよう！という作者の気概が感じられて大変好感のもてる漫画だと思います。私のハートはいいぞもっとやれ、という気持ちでいっぱいです。

アニメの方はがんばってはいると思うのですが、どうもオリジナル展開部分にセンスの古さがめだつというか、ギャグはいいからお色気をもっと！という感じですね。別に30分全部美柑とヤミの入浴シーンでキャッキャウフフとかでも私是一向に構わんっ！！と断言できるのですが。どうですかスタッフの人。きっとDVDもそっちの方が売れますよ。

それが無理なら普通に原作どおりやってくれれば……。ええ。

あ、でも天条院沙姫はアニメ版の方が可愛いです！声優さんのおかげかもしれませんけど！

さて、次の本もとらぶるで、ツンデレ風紀委員こと古手川唯ちゃんを描こうかと思っております。あと天条院沙希姫も少し。そんな感じで、ではまた！

■奥付

発行：2008・07・25 印刷：ねこのしっぽ

VOLTCOMPANY／旭丸

mail:volt@nona.dti.ne.jp

HP:<http://www.nona.dti.ne.jp/^volt/index2.html>

「深海60000」

VOLTCOMPANY.



蜜柑